

著者紹介（執筆順、＊は編者。①所属、②経歴、③主要業績）

＊末近浩太（すえちか こうた）

[序章・第7章・終章]

- ①立命館国際関係学部教授
- ②京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程（5年一貫制）修了、博士（地域研究）（京都大学）
- ③『中東政治入門』ちくま新書1514、筑摩書房、2020年。
- 『イスラーム主義——もう一つの近代を構想する』岩波新書1698、岩波書店、2018年。
- 『イスラーム主義と中東政治——レバノン・ヒズブッラーの抵抗と革命』名古屋大学出版会、2013年。

吉川卓郎（きっかわ たくろう）

[第1章]

- ①立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部教授
- ②立命館大学大学院国際関係研究科満期退学、博士（国際関係論）（立命館大学）
- ③“Jordan’s Regime Security Under the COVID-19 Pandemic: Securitisation Against Visible and Invisible Threats.” *Alternatives: Global, Local, Political* 50(3), 2025.
- 『ヨルダンの政治・軍事・社会運動——倒れない王国の模索』晃洋書房、2020年。
- “The Diversity of Japan’s Overseas Development Assistance to the Hashemite Kingdom of Jordan: A Case Study of the Role of Security.” *Contemporary Review of the Middle East* 5(3), 2018.

鈴木啓之（すずき ひろゆき）

[第2章]

- ①東京大学大学院総合文化研究科特任准教授
- ②東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得満期退学、博士（学術）（東京大学）
- ③*Gaza Nakba 2023-2024: Background, Context, Consequences*（共編）Springer, 2025.
- 『パレスチナ／イスラエルの〈いま〉を知るための24章』エリアスタディーズ206、（共編）明石書店、2024年。
- 『蜂起〈インティファーダ〉——占領下のパレスチナ 1967-1993』東京大学出版会、2020年。

千葉悠志（ちば ゆうし）

[第3章]

- ①京都産業大学国際関係学部准教授
- ②京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程（5年一貫制）修了、博士（地域研究）（京都大学）
- ③“Arabic News Channels in the Middle East: Development and Transformation.” In *The Handbook of Media and Culture in the Middle East*. John Wiley & Sons, 2023.
- 『現代中東における宗教・メディア・ネットワーク——イスラームのゆくえ』（共編）春風社、2021年。

『現代アラブ・メディア——越境するラジオから衛星テレビへ』ナカニシヤ出版, 2014年。

岩坂将充 (いわさか まさみち)

[第4章]

①北海学園大学法學部教授

②上智大学大学院外国语学研究科博士後期課程満期退学, 博士 (地域研究) (上智大学)

③『猛威を振るうストロングマン——ガバナンス改革と権威主義の再興隆』(共編) 明石書店, 2025年。

『エルドアン時代のトルコ——内政と外交の政治力学』(共著) 岩波書店, 2023年。

『よくわかる比較政治学』(共編) ミネルヴァ書房, 2022年。

渡邊 駿 (わたなべ しゅん)

[第5章]

①(一財)日本エネルギー経済研究所中東研究センター主任研究員

②京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程 (5年一貫制) 修了, 博士 (地域研究) (京都大学)

③『内政——君主主導の改革ビジョンをめぐるヨルダン政治の展開』『君主制諸国』中東政治研究の最前線5, ミネルヴァ書房, 2023年。

『現代ヨルダン権威主義体制におけるクライエンテリズムの頑強性——2010年代の選挙制度改革の分析から』『日本比較政治学会年報』第24号, 2022年。

『現代アラブ君主制の支配ネットワークと資源分配——非産油国ヨルダンの模索』ナカニシヤ出版, 2022年。

山本健介 (やまもと けんすけ)

[第6章]

①静岡県立大学国際関係学部講師

②京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程 (5年一貫制) 修了, 博士 (地域研究) (京都大学)

③“Israel's Ongoing Annexation of East Jerusalem: Oppressing Palestinian National Sentiments before and after the October 7.” In *Gaza Nakba 2023-2024: Background, Context, Consequences*. Springer, 2025.

『パレスチナ戦争——入植者植民地主義と抵抗の百年史』(共訳) 法政大学出版局, 2023年。

『聖地の紛争とエルサレム問題の諸相——イスラエルの占領・併合政策とパレスチナ人』晃洋書房, 2020年。

黒田彩加 (くろだ あやか)

[第8章]

①京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科准教授

②京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程 (5年一貫制) 修了, 博士 (地域研究) (京都大学)

③『1月25日革命以降のイスラーム諸勢力の競合と言説——信仰と権力をめぐって』『アラブの春』のアクチュアリティ——エジプト1月25日革命を中心にみるグローバリゼーション

ン下の日常的抵抗』山川出版社, 2024年。
『イスラーム中道派の構想力——現代エジプトの社会・政治変動のなかで』ナカニシヤ出版, 2019年。

溝渕正季 (みぞぶち まさき)

[第9章]

- ①明治学院大学法学部准教授
- ②上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻博士後期課程満期退学, 博士 (地域研究) (上智大学)
- ③『アメリカの中東戦略とはなにか——石油・戦争・同盟』慶應義塾大学出版会, 2025年。
「グローバル・ジハードとアメリカの『対テロ戦争』」『防衛学研究』第72号, 2025年。
『同盟の起源——国際政治における脅威への均衡』(共訳) ミネルヴァ書房, 2021年。

河村有介 (かわむら ゆうすけ)

[第10章]

- ①神戸大学大学院国際協力研究科准教授
- ②ダラム大学政治学・国際関係学院博士課程修了, Ph. D. in Government and International Affairs (ダラム大学)
- ③“Can Capability-based Education and Social Policy Help Resolve the Middle East and North Africa (MENA) Gender Paradox? A Case Study of Tunisia.” (共著) *Journal of Human Development and Capabilities* 26(3), 2025.
“Public Sector Employment as a Social Welfare Policy: The “Social Contract” and Failed Job Creation for Youth in Egypt.” *Contemporary Review of the Middle East* 9(1), 2022.
“Structural Adjustment and Social Protection in the Middle East and North Africa: Food Subsidies in Jordan.” *Contemporary Arab Affairs* 8(1), 2015.

堀抜功二 (ほりぬき こうじ)

[第11章]

- ①(一財) 日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究主幹
- ②京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程（5年一貫制）修了, 博士 (地域研究) (京都大学)
- ③「石油／脱石油」『中東を学ぶ人のために』世界思想社, 2024年。
「日本・湾岸君主国の関係——重層的関係の成立と展開 (1955~2021年)」『君主制諸国』中東政治研究の最前線 5, ミネルヴァ書房, 2023年。
Asian Migrant Workers in the Arab Gulf States: The Growing Foreign Population and Their Lives. (共編著) Brill, 2019.